



国見町【福島県】 歴史文化基本構想

■策定年度：令和2年3月 ■人口：8,932人 ■市域面積：37.95km²
■担当課：国見町まちづくり交流課（令和2年3月現在）



当町では、指定・登録文化財だけでなく、地域に存在する未指定・未登録・有形・無形の文化財や民話・伝承など、地域の特性や魅力をあらわすものを総括して「歴史文化資源」として捉えた。町内に存在する歴史文化資源の総合的把握の成果を踏まえて、歴史文化の特徴を5つの視点で整理し、4つのストーリーを導き出した。町内全域を保存活用地区として設定し、保存活用方針に基づき保存・活用を推進する。

5 歴史文化を表す つのキーワード

盆地地形と街道・交通、政治と軍事、農村社会、
地質を反映した産業、地域社会と信仰

課題

- ・資源等の調査・整理が不十分
- ・後継者育成が不十分
- ・案内ガイドを担う人材が不足
- ・情報発信と学習機会が不十分
- ・所有者等の活動への継続的な支援が不足

保存活用方針

- ・国見の歴史文化の把握
- ・歴史文化を後世へ継承
- ・国見らしさを発信・発信
- ・歴史文化の価値を広く共有
- ・一人ひとりの歴史文化資源の継承

▲ 保存活用のための取り組み

過去と現在をつなげる

- ① 歴史文化に関する継続的な情報収集と調査研究
- ② 歴史文化に関する講演会・展示会等の開催による調査研究成果の公開



現在と未来をつなげる

- ① 維持管理の継続と適切な保存手法・修復技術の適用と支援
- ② 後継者育成に関わる仕組みづくり及び記録保存
- ③ 防減災・防犯対策の推進と災害時の対応
- ④ 歴史文化資源の保存・活用を図るための施設整備・充実



資源と資源をつなげる

- ① 案内ガイドの育成
- ② 歴史文化ツーリズムの振興
- ③ 周遊性の向上と案内板の設置及び歴史文化資源と歴史文化施設の連携・活用



人と人、人と資源をつなげる

- ① 積極的な情報発信の推進と学習機会の提供充実
- ③ 保存継承に向けた担い手・理解者・支援（応援）者のネットワークの構築
- ④ 保存継承活動・歴史まちづくり活動への支援
- ⑤ 歴史文化資源の保存継承活用団体による協議会の活動充実



▲ 関連文化財群



本町が設定した関連文化財群の中には、盆地地形や農村風景など、地質・地勢、自然風景、文化的景観を価値の背景に持つ歴史文化資源があり、歴史文化資源と一体的な価値を形成する周辺環境は広範囲にわたっている。本構想では、国見町の歴史文化の特徴である「地勢と歴史」「風土と生業」「資源と産業」「信仰」を踏まえ、つの関連文化財群を設定した。

東北地方

ストーリー

- ① みちのくの交流のまち国見
- 阿津賀志山と新旧交通網がもたらした歴史・文化交流 -
- ② 人々を育み、生活を支えた国見の豊かな風土
- 国見の自然がもたらす恵み -
- ③ 太古の大地がもたらした国見の産業史
- 窯業・鉱業・国見石の産業 -
- ④ 地域に根差した村々の祈り
- 信仰を中心とした地域文化の伝承 -

▲ 策定後の成果（見込まれる効果）

① 文化財保護意識の向上
町内に存在する歴史文化資源を総合的に把握し、その価値を顕在化して、本町における歴史文化の特徴を明らかにすることで、各地域が持つ歴史文化資源を改めて認識し、その価値を理解することにより、町民の文化財保護意識が高まり、郷土への誇りと愛着が生まれる。



② 町内外の交流の拡大
周辺環境も含め総合的に保存・活用していく方針を定めることで、各地域の特性や新たな魅力を見出し、それらを資源として観光や商工業等に活かすことにより、その価値が高まり、町内外の交流が拡大する。



③ 次世代への継承
本町の既存上位・関連計画や施策と連携を図り、この地でこれまで培われてきた人々の知恵、文化、歴史を受け継ぎ、未来へ伝えていくための地域づくり、まちづくりに活かす。地域活動・教育現場・町事業等において本構想を活用し、歴史文化資源の価値について普及を図ることにより、次世代への継承がなされる。

